



2019年10月31日

各 位

会 社 名 セントラル硝子株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 清水 正
(コード番号 4044 東証第一部)
問合せ先 取締役常務執行役員
経営管理室長 宮内 徹
(TEL. 03-3259-7062)

建築ガラス事業の構造改善に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会におきまして、国内建築ガラス事業の抜本的な事業構造改善を実施していくことを決定致しましたので、お知らせいたします。

記

国内建築ガラス事業につきましては、2018年5月10日に発表した中期計画においても、構造改善が必要な事業に位置付け、厳しい事業環境でも利益貢献できる体制、仕組みづくりを目指し、加工拠点の統廃合等、設備集約や効率化を中心とした各種施策を進めてまいりました。

しかしながら、需要は本年がピークという見方がある一方で、この先も人口減少に伴う新設住宅着工戸数の減少等、外的環境の好転は見込めず、これまでの取組みによる収支改善だけでは、量的、スピードともに対応不足であり、更なる抜本的な事業構造改善が必要と判断致しました。

<再構築の方向性>

・市場の縮小を前提として、強みのある製品、地域を選択し注力するために、競争力の弱い分野、領域については拠点の統廃合にとどまらず、部分的な撤退も選択肢に加え、事業規模の縮小も厭わず採算性を優先した抜本的な構造改善を進めてまいります。

構造改善の検討範囲は、保有窯の在り方、加工拠点、販売チャンネルに至る国内建築ガラス事業の全てを対象とします。

・全社的には不採算の同事業を改善することにより、投資を強化する等、他の成長分野・領域へより多くのリソースを振り向け、事業の選択と集中を併せて進めてまいります。

取組みはできる限り速やかに、遅くとも2020年度中に完了させる計画ですが、現在の中期計画には織り込まれていないため、全ての施策と目指すべき姿(事業戦略、組織体系)の実現性に目途をつけた段階で、新たな中期計画の策定を行なう予定です。

なお、上記の構造改善が当期の業績に与える影響は、現時点では未確定な要素が多く定量的に予想することが困難な状況であるため、本日公表しました当期の連結業績予想には織り込んでおりません。影響度が合理的に予測可能となった時点で、適宜見直していくこととしております。

以 上